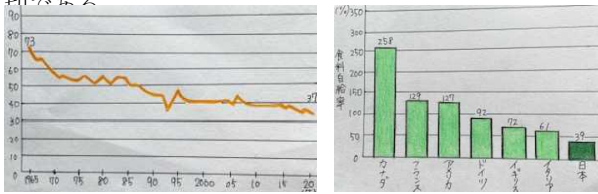


バーチャルウォーターについて

日本の食料自給率

日本は食料自給率が39%と他の国と比べて低いことがわかる。しかも、食料自給率は年々低くなっている。食料の生産は天候に左右されやすいので、輸入国の穀物生産量が減少すると、価格が高くなり買えなくなる可能性がある。食料はいつでも輸入できるとは限らないので、できるだけ国内で生産することが大切である。



日本は食料自給率が低い

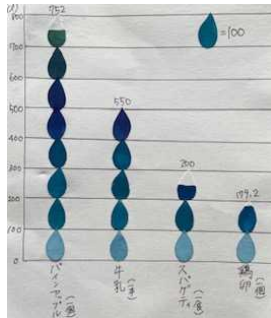
↓
バーチャルウォーターを多く輸入している

バーチャルウォーターとは

食料を輸入し生産している国において、輸入した食料を自国で生産すると仮定したときに必要とされる水のこと

身近な食べ物のバーチャルウォーター量

- パイナップル(1個) 952 L
- 牛乳(1本) 550 L
- スパゲティ(1本) 200 L
- 鶏卵(1個) 179.2 L



(牛丼の場合)

	米	牛乳	玉ねぎ
一人前	150g	100g	60g
含まれているバーチャルウォーター量	555L	2060L	9.48L

バーチャルウォーター量 2624L
500mLペットボトルでは... 5245本

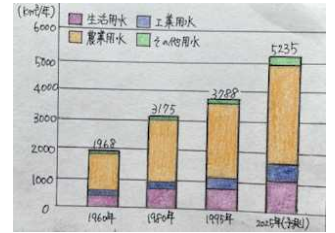
バーチャルウォーター年間輸入量

日本は世界的に見てもバーチャルウォーターの輸入量は多い。アメリカは自国で賄われている水が多いが人口が多いので輸入されるバーチャルウォーター量もおおくなっている。日本は食料自給率が低いいためバーチャルウォーターの量が多い。輸入によって水不足が加速している国の水問題を悪化させる可能性がある。

世界中で深刻化する問題

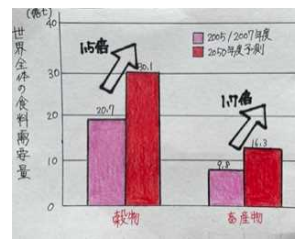
〈目的別の世界の水使用量の推移〉

水使用量は年々増加し、特に農業用水の割合が大きくなっていて、1960年から2025年まで約2.6倍である。人口増加や社会経済などにより今後も使用量が増えると考えられている。しかし、地球上の水資源は限られている。



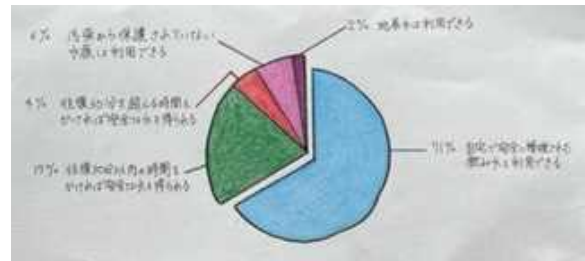
〈世界全体の食料需要量の変化〉

2050年は2007年と比べて穀物では1.5倍、畜産物では1.7倍になっている。それによって、生産に必要な水も増えている。



〈安全に管理された飲料水を自宅で利用できる世界人口の割合〉

世界人口の29%である21億人が安全に管理された水を利用できない。



結論

日本の食料自給率は年々下がり続けている。食料自給率が低いことによって多くの食料を外国に頼っていて、たくさんのバーチャルウォーターを輸入している。日本は水資源が豊富で、水問題とは無関係だと思われているが、食物の輸入によって他国の水問題を助長していることになる。世界中で水不足は問題となっている。しかし、これからも水の使用量は増えると考えられている。日本も無関係ではなく、自分たちが知らないところで関わっている。わたしたちはバーチャルウォーターについてもっと考えるべきである。

出典

農林水産省環境省、世界水の日報告書2019、日本ユニセフ協会